

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の目標値	R元年度の実績値
当期経常利益	千円	10,000	2,260

未達成の要因と分析	<p>元年度について、6月から10月までは全般的に需要に対して市場においての供給量が大きく、商品単価が下落したため、売上高が大幅に減少した。その主な要因としては、例えばキクについて、7月は産地において例年より低温な気候が続いたことから生育がよく、産地の出荷量が2割以上増えたため、例年より3割程度安い価格で取引された。また、10月には台風の影響で産地からの供給は落ち込んだが、それ以上に需要が落ち込んだため、価格が下落したことなどがあげられる。その他、バラについても8～10月、特に9月において8月の台風の影響で単価の高い品種の生育が遅れ、下位等級の品種の取引が増えたため、結果として全体単価の下落が発生した。</p> <p>また、3月には新型コロナの影響により、花きを利用する卒業式等のイベントのほとんどが中止または自粛となり、取扱高が激減したため、目標を大きく下回る結果となった。</p>
-----------	--

今後の改善方策	<p>全世界的な新型コロナの影響により全国的に花の需要が急落する中、国内の産地に対しては、卸売業者と共同で働き掛け出荷量（＝取扱量）の維持に努めるとともに、花きの消費を喚起するため、卸売業者、仲卸売業者、買受人など市場関係者が一体となって、国の支援策を活用するなど消費者の花き購買意欲を促進するための啓発活動に取り組む。</p>
---------	--